

3.11 を学びに変える ～「釜石の奇跡」を生んだ防災教育について～

長谷川研究室
01512045 春日 尚人

1. はじめに

本報では 3.11 の教訓として「釜石の奇跡」を取り上げ、防災教育が果たした役割について検討する。「釜石の奇跡」とは、津波災害の大きかった釜石市鶴住居地区において、鶴住居小学校(生徒 361 名)と釜石東中学校(同 222 名)の生徒全員が津波から逃れた出来事である。ここでは、現地視察を踏まえ、避難の軌跡を検証した。

2. 釜石の防災教育

「災害で子供の被害を無くしてほしい」等の意見から、釜石市では教育委員会により「津波防災のための手引き」と称した特別な防災教育を取り入れている。本来、学校では防災教育に限った時間を確保することが難しい。釜石市のカリキュラムの特徴は、学校の各授業で津波に関するキーワードを含めることで、生徒が津波の理解と防災意識を認識することにある。授業例を表 1 に示す¹⁾。例えば、小学校 1、2 年生の算数では、津波の高さを例題として挙げている。また、釜石市では小、中学校合同の防災体験を地域で行い、その文化の継承に取り組んでいる。防災体験の事例を表 2 に示す²⁾。例えば、市営プールでは水上救助の体験などが行われている。

これらの防災教育の背景には、東京大学教授・片田敏孝先生(当時群馬大学)というキーパーソンがおられた³⁾。片田先生は釜石市の危機管理アドバイザーで、人々に津波襲来の時「避難三原則」を徹底して守るよう教育した。「避難三原則」とは、危機に立ち向かう姿勢として「①想定にとらわれるな」、「②状況下において最善を尽くす」、「③率先避難者になる」である。後述のように、鶴住居小と釜石東中の生徒達は「避難三原則」を実施した結果、図 1 の想定ハザードマップ³⁾にとらわれず、避難・生存することができた。

3. 避難三原則の検証

生徒達が避難した経路と「避難三原則」が適用された地点を照合した。その検証結果をまとめて図 2 に示す。地震発生時、大きな揺れに中学校の生徒達は「津波がくるぞ」と教員よりも早く校庭へ飛び出し周囲に呼びかけた。これは避難三原則の③にあたる。一方、隣接する小学校では、教員が生徒達を避難させていたが、中学生の行動をみて校内は危険と判断し、中学生とともに地域で決められていた避難場所⁴⁾へ向かった(図 2(f))。避難場所へ向かう途中、中学生を筆頭に地域のお年寄りや保育園児を連れて避難し、避難三原則の③にあたる行動をとった(図 2(a))。第一避難場所に一時避難したが、施設裏の崖が地震により崩れかけていた光景を中学生が見かけ、「ここでは危ない」と周囲に呼びかけ、さらに高い避難場所へ移動した(図 2(g))。このような判断・行動は避難三原則の①と②に相当する。第二避難場所に向かう途中、津波は町の防潮堤に爆音とともに押し寄せていた。その光景を見た人々は、この場所も危険と判断し、さらに高所の石材店まで避難した(図 2(h))。このような状況に応じた判断も避難三原則の②にあたるものと言える。

4. おわりに

「釜石の奇跡」と謳われた 3.11 の出来事を片田敏孝先生の「避難三原則」に基づいて検証した。「釜石の奇跡」は奇跡ではなく、防災教育の成果と言える。防災教育の必要性をあらためて認識したことが、3.11 の残した最大の教訓と考えられる。

【参考文献】

- 1) 釜石市津波防災のための手引き : <http://www.katada-lab.jp/kamaishi_tool/index.html> (最終検索 2018. 12)
- 2) 防災情報ページ : <http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h23/64/special_01.html> (最終検索 2018. 12)
- 3) 片田敏孝 : 人が死なない防災, 集英社新書, 2014
- 4) 防災教育の手引き : <http://www.katada-lab.jp/wakayama_tool/cont-01/a5_3.html> (最終検索 2018. 12)

表1：釜石市の防災教育の授業（文献1）を参考に作成）

小学校		
1.2年	算数	長いものの長さたんい
	例題	「津波の高さは釜石湾で3mになる。3mは何cm?」
3.4年	社会	わたしたちの市はどんな所
	内容	避難場所や避難経路、石碑などの確認
5年	国語	目的に応じた伝え方を考えよう
	例題	「津波がきたらどのような内容のニュースで伝えるでしょうか?」
6年	理科	大地のつくりと変化、地震による大地の変化
	内容	地震の仕組みと被害の様子を考える
中学校		
1.2.3年	公民	わたしたちの暮らしと現代社会
	内容	災害時、高齢者や年少者を助けることが必要であることを教える

表2：釜石市の防災体験の事例²⁾

活動項目	概要
①防災マップづくり	市内会長の案内で、学校周辺の安全な場所をマップ化して配布
②救急搬送	釜石市消防署協力で、救急搬送の注意点と方法を体験
③応急処置	日赤釜石地区安全奉仕団協力で、三角巾等を用いた応急処置法の体験
④水上救助	市営プールで、背後から救助する方法
⑤炊き出し	釜石市赤十字奉仕団など4団体の協力で、大釜を用いて炊き出しの体験
⑥防火練習	釜石消防団6分団協力で、初期消火の重要性やバケツリレーを体験
⑦両石地区フィールドワーク	両石町内会長から「つなみてんでんこ」を語り継ぐことの大切さを学習
⑧片岸地区フィールドワーク	過去の津波の高さを再確認し、竹と毛布による担架づくりの体験
⑨風水害	盛岡気象台の出前講座で、風水害の危険性を学習
⑩海難救助	釜石海上保安部協力で、海難救助時のロープの結び方や心肺蘇生法の学習

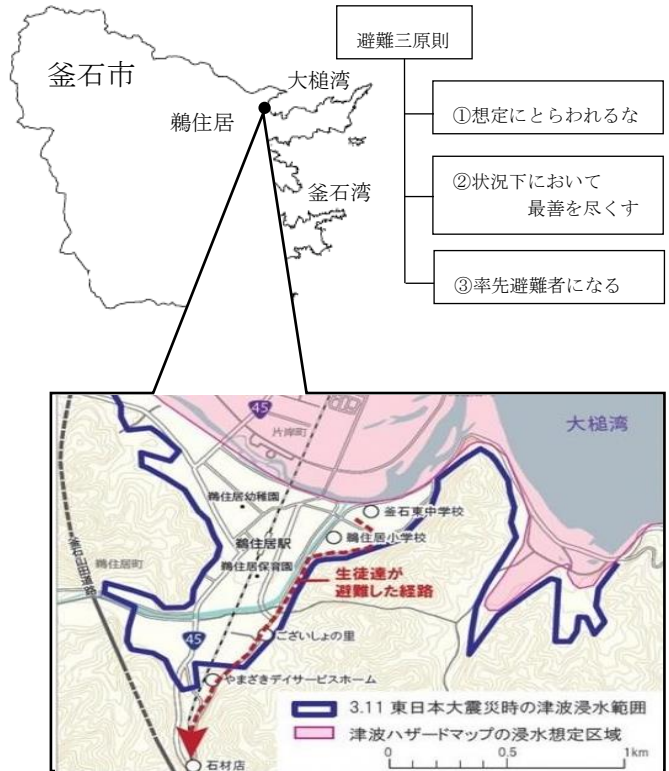


図1：鵜住居地区のハザードマップと避難三原則³⁾



図2：鵜住居小と釜石東中の生徒達の避難経路と軌跡（被災時の写真は文献4）による）